

第4回 勝山市立幼稚園のあり方検討委員会 議事録(要点筆記)

日時：令和4年10月27日(木) 午後7時～8時00分
場所：教育会館 第4研修室

会長

勝山市立幼稚園のあり方検討委員会も第4回となり、議論も集約に向かってきている。今後は答申に向けて少しずつまとめていく方向でいきたい。本日も熱い議論をお願いしたい。

事務局

- ・第3回勝山市立幼稚園のあり方検討委員会の確認
- ・成器南幼稚園父母の会との話し合いの報告

会長

今のことで、質問はないか。

答申の方向性について事務局より説明をお願いしたい。

事務局

これまで3回の検討委員会を開催してご意見をいただけてきた。

現在の幼稚園教育については、少人数の中で丁寧な教育を進めており、保護者も高く評価していただいている状況である一方で、少人数では多様な活動ができなかったり、子ども同士の関係性が固定されたりするなどの指摘を踏まえ、望ましい適正規模についてのご意見もいただいている。財政的な面での話もしたが、これまでの協議から、事務局としては少子化の進行を踏まえた幼児教育における適正規模が重要なポイントであると受け止めている。

この適正規模の人数については、前回の検討委員会で具体的な数字(1学年10人から12人は必要)も出していただいたので、事務局としては、これまでの協議を集約し答申のとりまとめに入りたいと考えている。答申の方向性については、事務局から原案をお示しする必要がありと考え、本日の委員会に向けて検討を重ねた。

まず検討の前提として、

- ・勝山市の今後の幼児教育をより充実していくために、教育委員会が私立の園にもしっかりと関わって応援、支援をしていくこと
- ・教育力の向上、子どもの教育環境の充実を今まで以上に図っていくために、先生方の研修の充実、カリキュラム面、ソフト面の強化を進めるだけではなく、それを行いつつ、さらにすべての子どもにより質の高い教育や環境を提供する体制を構築し、就学前の幼児教育や子育て支援等について、教育と福祉が連携をしていく仕組み作りを進めることを考えており、これは別途準備を進めているところである。

このように、今後、幼児教育をしっかりとやっていくことを踏まえた上で、成器南幼稚園をどうしていくかということを考え、今までの議論の観点を5点に整理した。

- ・勝山市の出生数が減少し、今後100人を下回る恐れがあること
- ・今後の少子化の推移や、勝山市の保護者のニーズを考えると、幼稚園の入園数が増加に転じることは難しいこと
- ・これまで市内7つの保育園が認定こども園に移行し、幼稚園の機能を有している1号認定の子どもを受け入れていること
- ・3歳児以上の幼稚園、保育園、認定こども園の教育・保育のねらい及び内容や、育てほしい10の姿は同じであること
- ・幼児教育をより効果的に行うためには、1学級あたり一定規模の人数が望ましいこと

これらの観点および、これまでの協議を踏まえると、公立幼稚園については、時期は別途検討するが、廃園とすることはやむを得ないと判断に至った。本日は、この方向性について協議していただき、答申に向けた意見の集約をお願いしたい。

会長

勝山市全体の幼児教育を教育委員会がしっかりと今後もバックアップしていく体制を整えるということ。その前提の元に、少子化の時代、適正規模の集団教育を行うためには公立幼稚園は廃園という方向性でいくという2つのポイントが出てきた。

まずは、勝山市の教育委員会と福祉部局が一緒になって幼児教育を進めていくという体制について、さらにして欲しい要望があれば答申の中に含めていく方向で考えていきたい。

教育委員会がどのように体制を整備していったら良いのかということの意見から入りたい。前回、教育委員会はどのようにして関わっていくのかという質問をされたが、意見はどうか。

委員

私は、前回の中部幼稚園廃園の時も関わっていた。何回も同じ質問を繰り返したが、幼稚園を廃止したら一体教育委員会は何をするのかが知りたい。同じ答弁を繰り返していたが、学校訪問等の先生の質を維持できるようなことをやっていくべきと考える。市教委は何もしないという答弁を繰り返しててがっかりしている。僕は携わって欲しい。全部の園は無理かもしれないが、年に1度は園を回って欲しいし、ちゃんと研修をすとか先生方の資質向上をしていくことを市教委としてやって欲しい。任せきりにして幼稚園をやめるというのは言語道断である。

ただ、訪問をして欲しいが、確かに私立もいろいろな研修があり忙しいと聞いていて時間が持てるかはわからないが、市教委も関わってほしいというのが私の望みである。

事務局

毎年4月の段階から、保育園、幼稚園の先生方と小学校の低学年の先生方が集まり、スムーズな小学校への移行のため幼小接続協議会をしている。そこでは、1年間のカリキュラムを話し合っている。そして、公開保育を園で行い幼稚園や小学校や県教委も入り進めている。

私立と公立の壁がなくなり、一緒に子どもを育てていくという体制は、少しずつ増えており、今後も増やしていく方向である。

訪問も、見ているだけでなく一日中先生方と一緒に体験して欲しいと言われたこともある。

事務局

先ほどの組織作りの話の中で説明したが、教育委員会は指導主事が学校や幼稚園の訪問をしているが、そういった組織を作るに当たっては、幼児教育を担当する場所を作り、私立の園へ訪問するような体制を取っていかなくてはいけないと考えている。

会長

指導主事訪問で公立の質を保っているという前提で、これからも勝山市全体の幼児教育の質を保つために、訪問を取り入れる事を考えて欲しいという意見が出た。質の向上というのはわかりにくい部分ではあるが、どのような指導をしていくと良いか提示できる事があるといいと思う。

意見はどうか。

委員

教育と福祉が、垣根をなくして1つになってできる組織作りができることは素晴らしいと思う。昨年のコロナウィルス感染症のことで、幼稚園の情報は小学校に入るが、私立こども園の情報は最初は解らなかった。独自で園の先生方とパイプを作って情報交換する中で、情報が入るようになり小学校として有難かった。廃園と聞くと淋しいが、建物がなくなっても幼稚園の素晴らしさが各園で生きるということは、保育園の良さと幼稚園との良さが生きてきて小学校へつながるということであり良いことだと感じている。

会長

公立幼稚園の教育力を、勝山市全体の子どもたちの教育力や資質向上につなげていくという方向で、勝山市として教育委員会として行っていくという要望を答申の中に入れて欲しいという事で良いか。

委員

仮に閉園となった場合、今在籍している子どもたちはどのような形で他の園に転園するのか。私が南幼稚園に子どもを預けていた場合、すごく不安になると思う。子どもの精神的なショックもかなりあると思う。そこはどのような対応をしてもらえるのか。

事務局

先ほどもあったように、時期はよく考えていかなければならない。在籍している保護者の意見等も踏まえて、判断をしていきたいと考えている。委員が言うことは配慮していくべきと思っている。

会長

在園している子どもに対してはデリケートな問題である。今回の答申の中にいつということは触れないということか。

事務局

答申に時期まで入れることは難しいのではないかと考えている。

委員

いつと決まっていらないのなら、来年以降の募集はどうするのか。

事務局

来年度の入園の募集はする。答申を取りまとめている時点であり、事務局の原案では廃園ということも踏まえて判断してもらうことは必要だと考えるが、来年度の募集をしないということではない。

委員

募集することに対して、来年や再来年に入園を希望している保護者に対しての説明会等は行われるのか。

事務局

具体的に入園希望者を把握していないので、広報等でこういった方向性があることを示すようにしていきたい。必要があれば、説明もしていきたいと考える。

会長

答申の中に時期は入らないということは、すぐにはなく来年度の入園希望の方の意見も聞きながら、市教委のほうで今後のスケジュールを答申後に考えていくということか。

事務局

適正規模という観点から、今の状況(人数)が続くのであれば我々の考えている方向性と合わない。どこかで募集を止めることになる。そうすると最後は1学年だけが残るということになる。それがその子どもたちにとって良いことかという検討はしていかなければいけない。ただ、時期を決めてずっと募集をしていくという形は、どこかで園を移っていただくことになる。こういった形が良いのかを含め、考えていきたい。

委員

今の話を答申の中に載せるのか。

会長

答申の中に時期は書かないが、在園している保護者に対しての意見を入れるのかということか。

委員

重要なことだ。

事務局

時期については、どう書くかという事もあるが、在園保護者の意見も踏まえて判断して欲しいということを入れると良いというのなら、入れる必要があると思う。

会長

在籍している保護者の方のご希望を伺いながら時期を決めていくということを答申に入れるということか。

事務局

それは、委員の皆様が入れるべきだと判断するなら入れる。

委員

すごく大事な言葉なので、確認をしたかった。僕は、市教委はどう考えているのかということを知りたい。今の言葉だと時期に余裕があるように聞こえる。ただ、それでいいのかとも思う。

会長

検討委員会としては、在席している保護者の希望を聞きながらということを入れていくべきだと私は思う。

委員

そうしたら、ずっとやめて欲しくないと言ったら廃園にならないのか。時期は人数で判断して検討委員会で決めるということか。ファジーな感じがする。

事務局

当然、在席している子どもの事は考えていく。その意味で保護者の意見を聞くことも当然である。ただ、今の人数の規模がこれでいいのかという議論をしての答申なので、少人数での活動が続くことは良くないと考える。その部分を合わせて時期は判断していく。

個人的なイメージでは何年も先になることはないと思う。

委員

園児数が今より増えるとどうなるのか。

事務局

それは、どう増えるかわからない。ただ、皆さんの意見で、1学年10人から12人が必要だということは、我々の基準の一つと考える。

会長

市教委は出生数の減少から、1学年10人ということが厳しいということ。これからの時代に向けての方向性を考えて検討しているので、人数が増えるということは想定していないと思う。

やはり1学年10人程度が適正規模ということで今後のことを考えていきたい。

在籍している保護者の意見を聞きながら、時期について教育委員会で検討していくということを答申に入れるということで確認をする。

委員

私は気持ち的には廃園に対して反対だが、しかし仕方がないかと思う。教育委員会と福祉は壁を乗り越えられるのかが不安に感じている。今までも、虐待の面や色々な面で壁を感じてきていた。国でこども家庭庁ができることでどうなるかわからないが、今は話だけで、具体的に目の前にあるわけではないので大丈夫なのかという心配はある。

会長

それは他の委員も同じ思いではないかと思う。国自体のこども家庭庁の設け方が、教育と福祉が協力し合う体制をしていけるのか不安があるが、勝山市の場合、大きな組織ではないので、勝山市全体でということが出来易いのではないかと期待をしている。

委員

その部分を強く答申に挙げてほしい。

会長

幼児教育をしっかりと、勝山市の教育委員会と福祉部局が一緒になってしていくということを答申に挙げていくという要望である。

副会長

教育委員会と福祉部局が深く関わって欲しいと思う。いずれにしても、少子化のことを考え、今後の時期は何時かというプランを考えて欲しい。

そして、すべての子どもに教育を受ける機会を得られる組織を作って欲しいと思う。その中で前向きに教育委員会と福祉が協力して欲しい。

会長

教育と福祉の協力ということで話が出てきているが、どう思うか。

委員

今回で4回目になるが、話を聞いていると保育園とこども園の教育が幼稚園よりも劣っていると理解されている感じを受けた。私の中では、教育と保育をしっかりとしてきたつもりなので幼稚園との差はないと信じている。その点で、こども園では1号認定がいるのに、幼稚園ではないという認識を持たれることが淋しい。決して差はないと理解して欲しい。幼児教育のこと、こども園のことを理解していれば解ってもらえると思う。教育委員会と福祉児童課は、当然横のつながりと縦のつながりをしっかりと欲しいと思う。お互いが歩み寄らないと成立しない。お互いの立場を理解した上で話を進めていくことが大切である。

そしてこの問題は、自然淘汰しないと解決しないと思う。裏を返せば、誰も責任は取りたくないという気持ちがあるのではないか。無難な方向性と思うが、決断をしなければいけない時には誰かが決断して欲しい。

会長

こども園の教育力が幼稚園より劣っているという話ではなく、勝山市全体の幼児期の教育を保証する仕組みだったり、指導訪問をするということを要望として挙げている。さらに委員が言うように福祉部局と教育委員会と一緒に考えていく仕組みを確立して欲しいことを答申に触れていくと考える。

これで全員の意見を聞いたが、心情としては廃園は受け入れがたい面ではあるが、これからの未来に向けて教育委員会と福祉部局がしっかりと手を携えて、幼児期の教育の質の向上を支えていくための体制を作り、研修等を含めたソフト面での支援をするということを見越したうえで、廃園はやむを得ないと考える。

委員

経営面での部分でしっかりと伝えていく必要があると思う。

会長

前回財政面での話は出たが、事務局からの話では幼稚園あり方検討委員会としては、子どもの教育の質ということを重視して答申を出したいということである。廃園になった場合の配慮として在籍をしている子の保護者の意見を聞きながら、適正人数ということの基本として時期的なことは答申の後に検討していく事で良いか。

委員

在籍している保護者もだが、これから入園を希望している保護者すべてにもしっかりと説明して欲しい。

会長

他に意見や要望はないか。

事務局

委員に確認だが、経営面のことも踏まえる必要があるというのは、前回の、私立だと補助があるということも答申に入れたほうが良いということか。

委員

別に入れなくてもいいが、赤字財政の中で少しでも経費を抑えていく努力をしていかななくてはいけないと考える。できることは私たちの力でやり、委ねられる部分は委ねると置き換えていけたらと思う。一か所だけを一生懸命に考える事だけで、それで良かれとなってしまうが、違う方向から考えた時に、誰かが責任を持って考えていかななくてはいけないということが、時と場合によってはあると思う。一つのことだけを考えていることと、全体のことを考える時では違うと思う。大変難しい事だと思う。しかし、私の立場だと廃園を勧めるとも言えないし、幼稚園の保護者や子どもたちの立場もよくわかるので、決断は難しいと思う。でも、しなくてははいけない時はするべきである。

委員

ただ、財政面は市教委は問題がないと言った。本音ではないと思うが、困っていないと言っていた。

委員

すでに保育園では財政的に削られてきて大変で、四苦八苦している所もある。財政面に余裕があるのなら、私たちは削られても仕方がないと我慢をしているが、こちらにもと思う。このコロナ過で大変な中、こんなに辛い思いをしなくてはいけないのかと思うほど辛い。その中で皆で子どもたちのために頑張っている状況である。

会長

こども園の先生方も、皆子どもの事を考えて頑張っているということである。

この幼稚園のあり方検討委員会の中では、財政ということよりも、子どものために勝山市全体で子どもの教育を盛り上げていこうという方向を、答申の中に入れていきたいということが事務局の提案であり、今話し合いの中でもその方向でまとまってきている。教育部局と福祉部局とが一緒になって勝山市全体の幼児教育を支えていく組織のことと、さらにソフト面での方策を含めて進めていくことも答申の中に入れ、全国でも先端を切ったような幼児教育を、市がバックアップしていく体制を作っていくという方向で答申をまとめたい。

そのことを前提として、廃園という方向性もやむを得ないということが委員全体の共通認識であると感じる。

さらに、廃園をする際には、保護者や入園希望の保護者にも説明や意見を求めながら廃園の

時期を事務局で検討していく事で良いか。

事務局

今日の会議の中で意見を入れるべきという部分もあり、整理して素案を作りたいと考えている。

会長

では、次の検討委員会では素案の提示があり、答申を作っていくことで良いか。

事務局が答申を取りまとめる方向で了承で良いか。

では、今日の会議は終わりたい。

事務局

本日は、重要な方向性を示していただいた。今後の検討委員会として、福祉のほうでも保育園のあり方を進めている。次回は、福祉と合同でしたいと考えている。今回出た話も再度検討し、来年度以降の勝山市の組織の形に生かしていきたいと考える。次回に、本日の意見も挙げて進めたいと思う。11月中旬に予定している。日が決まったらすぐ通知するのでお願いしたい。

その後、もう1回だけ素案を皆で確認し意見をもらい再調整をして、それで最終としたいと考えている。

副会長

様々な意見を基に答申にまとめていきたい。次回は保育園のあり方検討委員会と合同である。できるだけ早く、答申を出したいと思うのでよろしくをお願いしたい。